



# 地球市民



江別ユネスコ協会会報 第54号（2021・1・25）事務局・江別市教育委員会生涯学習課内

## いまコロナ禍のなかで

—2021年の年頭にあたり—

江別ユネスコ協会会長 押谷一

新年明けましておめでとうございます。  
寒さが一段と厳しさを増す季節になりましたが、  
皆様もさぞ厳しい気持ちで新しい年を迎えた  
ことと存じます。

昨年、世界は、新型コロナウイルス(COVID-19)  
に翻弄された1年でした。街を行きかう人々はマ  
スクを着用することが当たり前のこととなり、「密」  
になる会食を自粛し、会議や学校の授業も対面で  
行うことができず、ほとんどがパソコンを経由し  
たりモートとなりました。人々との往来や集まり  
による感染の拡大を防ぐために制限されて、旅行  
や飲食関係の業界などは、深刻な影響を受けてい  
ますが、皆様の生活は、いかがでしょうか。

私たちの江別ユネスコ協会も、総会をはじめ講  
演会、学習会を一度も開催することができませんでした。  
まことに残念に思います。

顧みると人類は、これまで深刻な感染症の拡大  
によって何度も大きな被害を受けてきました。例  
えば、アルベルト・カミュの小説『ペスト』では  
アルジェリアのオランという町で、ある年の4月  
に大量のネズミの死体が路上で発見されたことか  
ら始まり、やがて多くの人々が病に臥し、都市が  
封鎖され、愛する人と会うことができないという、  
現代のCOVID-19の状況にあまりにも似ている物  
語ですが、実際に14世紀に起きたペストの大流行

では、当時の世界人口4億5000万人の22%にあ  
たる1億人が死亡したと推計されています。1894  
年にはペストが香港で発生しましたが、北里柴三  
郎らによって原因菌が突き止められたので、感染  
防止の対策が講じられ、感染が抑えられました。  
COVID-19に対する幾つかのワクチンも開発され  
接種も始まったので、人類の英知によってこの危  
機的な状況を乗り越えることが期待されます。

昨年に開催が予定されていたオリンピック・パ  
ラリンピックも延期されました。国籍、肌の色、  
性別、宗教などの垣根を越えて行われる平和の祭  
典がコロナを克服した記念として実施されること  
を願っています。

ユネスコ憲章の前文には「戦争は人の心の中で  
生まれるものであるから、人の心の中に平和のと  
りでを築かねばならない。相互の風習と生活を知  
らないことは、人類の歴史を通じて世界の諸人民  
の間に疑惑と不信を起こした共通の原因であり、  
この疑惑と不信のために諸人民の不一致があまり  
にもしばしば戦争となつた。」と書かれています。

ところが、自国第一とするアメリカとイスラエルは、  
ユネスコがパレスチナ問題においてイスラエル  
に対する偏見があると一方的に主張し、ユネ  
スコを脱退しました。このほかにも世界各地には、  
紛争も多く思想・言論の自由を奪われ苦しみの中  
にいる人々がいます。COVID-19への対応をはじ  
め、今日私たちを取り巻く社会には、憎悪と悲し  
みが今なお横たわっています。一人ひとりが互い  
を理解していくべき解決の扉は開かれます。

世界中の人々がユネスコの役割を認めて、ひとつにな  
って平和な世界の実現に向けて挑戦してい

かねばなりません。昨年末には、世界を憎悪と分断に向かわせたアメリカの大統領が落選し、新しい大統領が選出されましたので、再び加盟してくれるなどを、分断から融和へと導かれることを期待したいと思います。

ビートルズのメンバーの一人、ジョン・レノンが亡くなつて40年となりました。彼が暗殺された夜、アメリカ人の同僚たちとラジオ放送・FENのニュースを沈鬱な思いで聴いたことを思い出します。彼の歌う「imagine・イマジン」という曲の詩は、人びとの対立や憎悪を無意味なものとして、私たちが平和な世界を思い描いて共有すれば世界が変わる、としています。希望を持って未来に向かって歩んでいきましょう。

ところで、私たちの住む江別市は、石狩平野のほぼ中央に位置し、札幌市に隣接する人口約12万人のまちですが、2019年に11年振りに人口が増加に転じました。札幌の中心部までJRで約20分と都市機能を持つとともに、2053haにわたって広がる野幌森林公園の主要部分が存在していることから豊かな自然にも恵まれており、ストレスの多い都市の生活から癒しを求める人々や、子育て世代が移住を希望しているようです。

市内には、縄文時代の遺跡もあり、先住民族アイヌは樺太南部や千島列島南部とも交易を行なつたことだと思います。江戸時代には場所請負制により石狩川左岸に鮭漁と交易の場所も設けられていました。1871年(明治4年)には、宮城県涌谷領から21戸76人の農民が移住して江別の移民開拓が始まり、1878年には現在の緑町・王子地区に屯田兵が入植し、石狩川上流から農産物や木材が運ばれ、幌内鉄道の駅も開業して近代日本の建設にとって重要な物流拠点として発展してきました。

現在、COVID-19によって、江別ユネスコ協会の会員の皆様も市外への旅行もままならない状況にありますが、この我慢の時を、私たちのまちの魅力を改めて見つめ直す機会として頂いて、次なる活動への飛躍台にしようではありませんか。

それでは、一日も早く皆様の笑顔と再会できることを祈っています。お元気でお暮しください。

## エスティージース(SDGs)を考える

[時事雑感]

副会長 田 村 邦 雄

2019年9月、国連本部で開かれた「SDGsサミット2019」の席上で、アントニオ・グテーレス国連事務総長が「我々は取り組みを更に強化しなければならない。今こそ、個人的にも集団的にも大胆なリーダーシップが必要である」と発言しました。「持続可能な開発のための2030アジェンダ」の採択から4年経っても、SDGsの取り組みが進んでいないことに苦言を呈したのです。

「2030アジェンダ」は2015年9月の「国連・持続可能な開発サミット」で採択され、SDGs(持続可能な開発目標)は、そのアジェンダの中核をなしています。(アジェンダは実行計画書)

日本では早速、政府が2016年6月に首相を本部長とし、全閣僚をメンバーとする「SDGs推進本部」を内閣官房に設置、省庁横断的に取り組むことにし、さらに「SDGs推進円卓会議」を開いて経済界、労働界、学界など各層の意見を吸収し、2016年12月に国家戦略として「SDGs実施指針」を策定しました。(2019年12月改訂)

この実施指針のもとに、政府は毎年「SDGsアクションプラン」を策定して、各省のSDGsに対する施策をまとめています。このアクションプランで提示されているのが日本のSDGsモデルです。このモデルでは、①ビジネスとイノベーション、SDGsと連動する「ソサエティ5.0」の推進、②SDGsを原動力とした地方創生、強靭かつ環境に優しい魅力的なまちづくり、③SDGsの担い手としての次世代、女性のエンパワーメント、が3本柱として立てられています。(「ソサエティ5.0」は、政府の第5期科学技術基本計画の中で「経済

発展と社会的課題を両立する人間中心の社会」と定義されています。)

これら国内の現状については幾つかの問題点はあるにしても、政府の取り組みが各分野、各地域、とりわけ経済界においてそれなりの成果を挙げつつあるようで、今後に期待したいと思います。

しかし、SDGs の目標は、一口に言って「世界から貧困をなくすこと」であり、現在の「持続不可能な社会・経済・環境」を「持続可能な社会・経済・環境」に変革すること、です。現代の人類社会は、2016年の段階で、地球の再生能力の1.69倍を消費していると言われています。このままでは持続不可能であり、これを持続可能な軌道に引き戻すことは並大抵のことではありません。

グテーレス事務総長が「SDGs サミット2019」に提出した報告書は、「SDGs が2030年までに達成されるためには、各国のスピードが遅すぎる」と指摘し、「SDGs を取り巻く国際環境が、紛争の増加、自然災害による経済的損失等により2015年から大きく悪化している」と警告しているのです。

SDGs が作られた原点として 2 つの流れが考えられ、1つは 1987 年にブルントラント元ノルウェー首相が座長を務めた「国連・環境と開発に関する世界委員会」が提出した報告書「我々の共通の未来」に端を発する「持続可能な開発」という考え方であり、もう 1 つは 2000 年の「国連ミレニアム・サミット」での宣言を基にして 2001 年に策定された、途上国の開発のための「ミレニアム開発目標 (MDGs)」からの流れです。

これらを背景にして、最初に SDGs の策定を国際社会に提案したのは、南米のコロンビア共和国の外務省環境局長だったポーラ・カバジェロ女史で、2011年8月にインドネシアで行われた「リオ+20 サミット」(2012年リオ・デ・ジャネイロの国連・持続可能な開発会議) の準備会議のことでした。彼女は、MDGs をモデルにして、地球環境問題についても同様のゴール、ターゲット、指標を設定し、これを「リオ+20 サミット」の成果

にするべきだと主張し、認められたのです。

この成果文書の交渉は 2012 年 1 月から始まり、加盟国から指名された 30 名の作業部会メンバーは粘り強い協議と論争の末 2014 年 7 月に案をまとめ、これが 2015 年 7 月の最終交渉を経て、同年 9 月の「国連・持続可能な開発サミット」でようやく採択されました。先進国と途上国との間の価値観・利害の対立もあって、この 3 年半の間には世界中のあらゆる地域、あらゆる立場の多数の人々の参画と討論があったことが知られています。

これだけ国連の英知と調整力を集中した成果ですから、加盟国はこの SDGs に国家をあげて取り組まねばなりません。現段階で、ほかに地球の危機を回避する方策はないと思われるからです。

いずれにしても「持続可能な開発」のためには、一人一人が、世界の人々や次世代の人々、また環境との関係性の中で生きていくことを再認識し、行動を変革することが必要です。そのための教育が「持続可能な開発のための教育 (ESD)」ですが、2005 年に「国連 ESD の 10 年」が採択されて以来、日本でも ESD との積極的な取り組みが行われています。現在、文部科学省と日本ユネスコ国内委員会は、ユネスコスクールを学校教育分野での ESD 推進拠点として位置づけて支援しており、各ユネスコ協会もユネスコスクール制度に加盟する学校の増加を図り、その運営に協力しています。

近年、このユネスコスクールの活動の指標として、SDGs の学習を採用し、実践面にも生かそうとする動きが始まっています。この動きが学校教育全体に浸透して、地球を救うことができる最後の世代に、その自覚を育てることが急務です。

同時に、民間ユネスコ活動を支える地方自治体、各学校、ユネスコ協会等が連携して、市民に「生活様式を変革する」自覚に目覚めてもらう活動を起こすことも重要なことです。

それにしても、新型コロナウイルスで混乱する世界の現状は、グテーレス国連事務総長の嘆きを、ますます深刻にしているに違いありません。

## 使用済み切手の回収活動を継続

江別ユネスコ協会では創立当初より使用済み切手の回収活動を行い、途上国に赴いて医療奉仕活動を行っている団体 JOCS（公益社団法人日本キリスト教海外医療協力会）の事業に協力しています。現在、JOCS の東京事務所では、切手の整理作業をするボランティアの人々のコロナ感染を防止するため、使用済み切手の受入れを 3 月末まで一時停止していますが、4 月の再開に備えて当協会では平常通り回収活動を継続しています。

ご協力頂いている各企業、官公署、学校等の方々には、厚く感謝申し上げます。また会員の皆様には、今後とも変わりなく回収活動にご尽力くださるようお願い致します。

## カレンダーの交換で国際理解

当協会では「カレンダーの国際交換」活動を実施しています。各企業が宣伝広告用に配布しているカレンダーの余剰品を寄贈して頂いて、日本の生活文化を外国の方々に理解して頂くために役立ちそうな、日本の風景・花鳥・行事などの絵や写真をデザインしたものを、外国の学校・教育施設等に発送しています。当初は相互に交換して教材などに使用していましたが、近年では商業カレンダーの製作が減少したため回収数量が激減して、活動も曲がり角に来ています。当面はできる範囲で継続しようという方針ですので、回収作業について会員、市民の皆様のご協力をお願い致します。

## 江別ユ協の動き MEMO

(2020 年 2 月～2021 年 1 月)

◇カレンダーの国際交換活動　日本文化の紹介に適した絵（写真）入りカレンダー21 本を 2020 年 2 月 3 日にインド、アメリカ、韓国へ発送。

- ◇道内ユ協との機関誌交換 2 月 3 日発送。
- ◇「江別国際センター冬の集い」に参画 2 月 9 日（国際センター）主催は江別市国際交流推進協議会。当協会の角田副会長が実行委員として推進。
- ◇事務局だより発行 3 月 9 日号。
- ◇会計監査 4 月 10 日（教育委員会）
- ◇役員会 4 月 23 日（野幌公民館）
- ◇事務局だより発行 4 月 24 日号。
- ◇市国際交流推進協議会・総会 4 月 24 日（江別国際センター）会議中止。総会議事は書面決議。
- ◇江別市生涯学習推進協議会総会 5 月、書面決議
- ◇道ユネスコ連絡協議会・総会 5 月 9 日（札幌すみれホテル）会議中止、総会議事は書面決議。
- ◇市民憲章推進協議会・総会 5 月、書面決議。
- ◇江別市都市提携委員会・総会 5 月、書面決議。
- ◇事務局だより発行 5 月 20 日号。
- ◇江別ユネスコ協会・総会 5 月 28 日（野幌公民館）会議中止、総会議事は書面決議。
- ◇事務局だより発行 6 月 29 日号。
- ◇日本ユネスコ協会連盟へ現況届提出 7 月 20 日
- ◇事務局だより発行 9 月 23 日号。
- ◇本年の活動について会長所信を発送 9 月 25 日
- ◇国連デー記念講演会 10 月 23 日（京王プラザホテル札幌）主催は国連協会北海道本部、北海道。演題「MDGs から SDGs へ—健康を中心に—」講師は玉城英彦・北大名誉教授。田村副会長が出席。
- ◇事務局だより発行 11 月 26 日号。
- ◇道ユネスコ連協・新年午餐会 1 月、開催延期。

## 事務局あとがき

・本号は会長、副会長の特別寄稿で紙面を埋める結果となりました。コロナ禍のためとは言え、本年度は量・質ともに活動の内容が乏しいことが残念です。これを機に市民活動の手法も変容するでしょう。今は会員各位のご健康を祈るばかりです。

事務局：〒067-0074 江別市高砂町 24-6

教育委員会・青少年係内電 381-1069 担当見上